

# 一緒に学び、富山大学を「おもしろい大学」にしていきたいと思います

## INDEX

- 01 学長挨拶・目次
- 03 教育の特色
- 09 学部選び INDEX
- 11 学部紹介
- 29 大学院
- 30 学生生活
- 33 就職支援・キャリア支援
- 37 国際交流
- 39 課外活動紹介
- 41 キャンパスマップ・アクセスマップ
- 45 入試状況
- 48 富山大学をもっと知りたい方へ
- 49 入試関係

これから世の中が急速に変化します。新型コロナウイルス感染症により、在宅勤務やオンライン授業が進み、従来の世の中の仕組みが大きく変わりました。通信も4Gから5Gに変わりつつあり、情報量が大きく増え、通信スピードも速まっています。また、環境対策も2050年までにカーボンゼロを目指すといった目標が掲げられ、技術革新が求められていると同時に、「大量生産、大量廃棄」という形式から「必要な分だけ生産し、不要となればリサイクルして有効活用する」という生活様式に変わっていきます。自動車も、ガソリン車はあと10~20年すると無くなり、ハイブリッド車、電気自動車、水素自動車へと変化し、併せて自動運転化されていきます。これら急速な産業改革ともいえる時代に対応するには、どうすれば良いでしょうか。

### 新時代に適応し、活躍できる人材を育てる(富山大学の目標)

正直、世の中がこれだけ早く変化するとは思ってなかったもので、大学教育をいかに変化させ、新時代に適応させるかについては、各大学で探りあっている状況です。しかし、その対応を誤れば、それまで大学で築いた名声や実績は過去のものになってしまいます。

富山大学では、新しい時代に適応し、活躍してもらうために、種々の取り組みを行っていますので、以下に紹介します。

#### 1. データサイエンス教育の必修化

これからのデータ社会に対応するため、国は2025年までに大学生全てに対してデータサイエンス、AIを学ぶように求めて

います。富山大学では、5年先行する形で、**2020年から1年生全員にデータサイエンス教育を必修化しました。**理系の学生のみならず、文系の学生にとってもこれからの新しい時代の中で、社会で活躍していただくためには、データの収集、解析方法、統計処理、プログラミングの知識が必要であるからです。また、2年次以降は、各学部に必要なデータサイエンスを学んでいただきます。同時に**データサイエンス寄附講座を2021年に開設し、情報系の企業から教員が出向してビジネスに直結したデータサイエンス教育(中~上級編)を提供します**ので、ぜひとも受講して下さい。更に、2022年からは、文理融合大学院を開設し、上級者を育成し、データサイエンス教育でトップランナーとなるように計画していますので、学生諸君と共に学んでいきたいと思っています。社会(企業)に貢献し、チャレンジして新しい社会を開拓し、生涯学習を行い、自らを高める努力を続ける人材を輩出したいと思っています。

#### 2. 多様な人材の意見を聴き、チームワークで事業を推進できるヒト作り

現在、多くの専門分野が生じているため、これらを繋げていく「ネットワーク形成」と「チームワーク」が益々重要となっています。富山大学では、2018年から教養教育を一元化し、9学部の1年生が、五福キャンパスで学部の枠を超えて学ぶようになりました。学生諸君におかれましては、講義や課外活動を通じて、他学部の学生と交流を深め、価値観の異なる意見も参考にし、多様な価値観を尊重しながら、チームを一丸(ワンチーム)とし、進むべき道を決めていくと

いった手順を学習して欲しいと思っています。いくつかの課題解決型講義を開講しておりますので、積極的に参加してスキルを身につけて下さい。この中で、ITツールを活用し、多くの情報を収集し、これらをまとめるコミュニケーション能力を高めて下さい。

#### 3. グローバルに活躍できる人材育成

オンライン(デジタル)を使用することで、時間・ロケーションの制約がなくなり、国内外の方々とのコミュニケーション機会が増え、新たな価値を迅速に決定することが求められていきます。例えば1つの製品を作るのに、部品の調達は全世界から行いますし、出来上がった商品は海外に販売する必要があります。日本の企業に就職しても海外出張や海外勤務する機会は増えてきます。その際、英語を共通言語としたコミュニケーション、デジタル技術を利用した図表の作成によるコミュニケーションの強化等が必要となります。これらを富山大学で経験してもらうため、海外留学生の確保、富山大学から海外の連携校への留学機会を増やそうとしています。その1例として、1年生で入学直後と1年生の修了直前に英語会話能力をチェックして、各自の英語会話能力を高めたいと考えています。また、英語の上級クラスを設け、1年生の春休み(3月頃)に海外の連携校への短期留学するコースを2021年に新設いたしました。皆さんの積極的な参加を期待しています。

#### 4. 授業ではなく、大学では講義の中で課題解決能力を身につける

高校までは、授業で先生が生徒に一方的に教育するスタイルでしたが、大学では講

義となり、教員(先生)と学生が一緒になって種々の課題を解決するというスタイルに変化します。もちろん全ての講義が課題解決型ではありませんが、教科を選択する際に課題解決型科目を選択していただき、楽しみながら学習し、自己を高めていただきたいと強く願っています。

#### 富山大学の各学部の先進的な取り組み

- 人文学部:2022年度より心理学コースの募集人員を増やし、大学院修士課程に心理学プログラムを新設し、公認心理師を養成できる体制を整備する予定です。複雑な社会の中で「心」に寄り添い、理解し、これらの問題を解決する人材育成を目指します。
- 人間発達科学部:2022年度より、金沢大学と連携し、共同教員養成課程の設置を構想しています。小学校・中学校教員、特別支援学校教員、幼稚園教員等から、複数の教員免許資格を取得できるようになり、名称も教育学部共同教員養成課程と変更する予定で、両大学の強みを発揮した教員養成を目指します。教員(先生)になりたい方の入学を希望します。
- 経済学部:2022年度より社会データサイエンスコースを新たに設置し、データサイエンスに基づく経済学の知見を高めていただき、優秀な人材を輩出したいと考えています。
- 理学部:富山大学では、重力波望遠鏡「かぐら」を用いた研究推進を東京大学宇宙線研究所と行っています。世界的な成果が得られることを期待しています。

義となり、教員(先生)と学生が一緒になって種々の課題を解決するというスタイルに変化します。もちろん全ての講義が課題解決型ではありませんが、教科を選択する際に課題解決型科目を選択していただき、楽しみながら学習し、自己を高めていただきたいと強く願っています。

●工学部:触媒を使用し、CO<sub>2</sub>から燃料や化学繊維、ペットボトルに変換する特殊技術を富山大学工学部は有しており、これからのカーボンニュートラルに大いに役立ちます。また、医薬理工連携により新たな創業を目指しています。

●都市デザイン学部:データサイエンス教育、課題解決型講義を積極的に行っています。2021年には、熊本大学と連携し、先進軽金属材料国際研究機構が設立されました。今後、電気自動車や医療機器、建築材料など幅広い分野に活用されることが見込まれており、革新的なイノベーションを実現したいと考えています。また、未来の都市(スマートシティ)をデザインしたり、防災や減災社会を構築したいと考えています。

●医学部:優秀な医師、看護師を県内並びに全国に輩出しています。附属病院においては、最新の技術や機器を用いた高度な医療をチームで行っています。脳科学、和漢薬、がん治療、メタボリック症候群など質の高い臨床研究を行っています。

2020年設立のアイドリッグ脳研究センターでは、睡眠時やリラックスした際の脳活動を研究し、世界的に評価されています。

●薬学部:薬学科(6年制:薬剤師養成)と創薬科学科(4年制:創薬研究者育成)の2学科から成りますが、2022年度より両学科とも附属病院研修を必修化し、患者さんのニーズに応える薬剤師、研究者を養成で

きるようになりました。医学部、附属病院と連携して、試験管内アッセイから動物実験を経て、臨床試験を行う体制が出来上がりました。富山大学から新薬が生まれていくことが期待されます。

●芸術文化学部:2020年に**技藝院を設立し、文化財保存や3Dプリンター等を使用した新造形技術開発にも取り組んでいます。**また地域と連携して芸術文化の発展や承継に貢献しています。

#### 富山大学での学生生活をエンジョイして下さい

2021年以降も新型コロナウイルスのため社会活動や学生同士の会食なども制限されると予想されます。このような状況ではありますが、オンライン食事会などを通じて、学生同士のコミュニケーションを深めて下さい。また、富山県には豊かな自然がありますので、自然を体感してもらい、学生時代をエンジョイして下さい。クラブやサークルも積極的に参加して下さい。富山県で暮らし、学生生活を送る時間が、皆さんにとって人生の宝となると確信しています。単に「知識」や「技術」だけに頼るのではなく、「心」も成長させて下さい。心が健全に育つためには、大学生活がおもしろく、また、学友同士の友情形成が必須です。富山大学入学後は、「心」が成長するようにサポートしていきたいと思っています。入学式で皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

富山大学長 齋藤 滋